

令和6年度 生石保育園事業報告

1. 概要

①運営方針

- 西部地区は流入人口も横ばい状態で、今年度は申込者が20%増加しています。そのため、年間通じて120%を超える受け入れを行いました。しかしながら、松山市の人口は減少しているため今後の少子化に備え、地域行事への参加や広報活動にも力を入れて取り組みました。
- 物価高騰の影響が大きい給食材料について、今までに取引があった業者の価格上昇が続いたため他社とも交渉し納品を行ってもらいコストカットに向けた取り組みを実施しました。
- 施設も設置から年月が経過しており、至る所に不具合が出ておりその都度松山市と協議しながら修繕を行っています。そのほか、松山市によるLED付け替え工事を行いました。
- 園庭環境を整備することで、在園児の保護者だけでなく、園選びの見学の方にも大変喜ばれています。地域の子育て家庭に向けた園庭開放に加え、在園児の家庭にも園庭開放を行うようにしました。また、地域の広報誌などを通じて園の情報を発信するように努めました。
- 市内でも保育士不足は顕著に見られ、保育士確保についても依然紹介会社に頼らざるを得ない状況も続いています。市の就職フェアへの出展については松山の両園として一定の成果は見られました。また、職場環境整備の公休日数の増加と有休消化率の向上については達成できました。
- 南海トラフ臨時情報が発出されたり、線状降水帯による市内の冠水やがけ崩れがおきたりするなど、近年は今まで起こらなかった自然災害が頻繁に起こるようになりました。そのような状況の中BCPの作成は行ったものの、職員への周知や計画の実行性については課題が残る一年となりました。

②定 員 90名 + 定数外20名 合計110名 (入園率122%)
入園予約 4名受入

③事業日数 296日 (ほか休日保育 69日実施)

④開園時間 平 日 7:00 ~ 20:00
土曜日 7:00 ~ 20:00
休 日 8:00 ~ 18:00

⑤保育時間 早朝保育 7:00 ~ 8:30
通常保育 8:30 ~ 18:00 【標準時間認定】
8:30 ~ 16:30 【短時間認定】
延長保育 18:00 ~ 20:00

⑥職員数

園長1名、主任保育士1名、保育士25名 (うちパート職員10名)

保育補助 1 名、調理員 6 名（うちパート調理員 4 名）

パート用務員 1 名（障がい者雇用）、嘱託医（内科・歯科）各 1 名（各年 2 回健診）

2. 保育運営

①保育理念

- 子どもは子ども同士認め合い、助け合い、励まし合い、学び合う子ども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、子どもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 社会福祉法人白鳩会メソッド・一日の保育の流れを中心に、子どもたちが主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え、自己を十分発揮し、人として『生きる力』を育む。
- 在園児および地域の子育て支援を行う。
- 愛着関係を確立させ、子どもとの継続的な信頼関係を築く。

③保育目標

- 乳児期の愛着関係を基盤とし、認知能力（記憶、計算、判断、決定、言語理解など）と非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、思いやり、自己肯定感）を育む。

④クラス体制

0 歳児 いちご組	1 1 名	（他 入園予約 4 名）	保育士 4 名
1 歳児 も も組	1 7 名		保育士 4 名
2 歳児 ぶどう組	2 0 名		保育士 4 名
3 歳児 みかん組	2 1 名		保育士 2 名
4 歳児 りんご組	1 8 名		保育士 2 名（うち障がい児加配 1 名）
5 歳児 めろん組	2 3 名		保育士 2 名（うち障がい児加配 1 名）
合計園児数	1 1 0 名		保育士 1 8 名
主任保育士	1 名		
フリー保育士	1 名		
子育て支援担当保育士	1 名	（パートタイム保育士）	
延長・休日保育担当保育士	4 名	（パートタイム保育士）	

⑤保育内容

- 保育を行う中で、チェックリストを振り返りに活用したり指導の場面で活用したりするようにしました。経験の浅い職員でも手順や方法について共有することができました。
- 子どもの自立に向け必要以上に声かけを行わないように指導を行っていました。職員によっては無意識のうちに指導的な指示語ばかり使う職員もおり現場において指導を行っています。

- リトミックは継続的に行っています。柔軟性や体幹を鍛えることを意識しリトミックやほかの活動などを意識して行うことで少しずつ改善が見られてきました。
- 漢字教育は次年度から業者の変更に伴う絵本の変更などがあるため、保護者への説明や職員研修を実施しました。
- 朝の意味ある運動や運動遊びでは、できるだけ裸足で活動し運動量を上げられるように取り組みました。裸足で行うことで足指の動きなどがよく見られるようになってきました。運動の内容はその都度見直ししながら取り組むものの、職員によって指導力の差が見られています。
- 昨年度から実施しているSDG'sのカリキュラムを継続して行っています。年齢ごとに経験することで少しずつ興味を持てている様子です。
- 全国人権擁護委員連合会のリーフレットを用いて人権について学びましたが、以前に比べ子どもたちが話を理解し想像する力は弱くなっているように感じます。また、子どもたちに人との関り方やルールを分かりやすく伝えるためソーシャルスキルカードを用いた人権教育を行っています。
- 食育活動は定期的に実施したものの、夏の猛暑や水害等で野菜の栽培についてはうまくいかない一年となりました。4歳以上はバイキング形式での配膳を行って食事を楽しみました。
- 療育機関と連携し、子どもへのかかわり方や発達特性の理解を深めながら個別性に配慮し関わるようにしました。

⑥家庭との連携

- クラス懇談会（年2回）個別懇談・就学前懇談会（年1回）保育参加（年1回）保育参観日（年1回）家庭訪問（新入園児のみ）を実施しました。
- 保護者との情報共有は、連絡アプリを活用し連絡を行いました。年間通して大きな問題もなく活用することができました。しかし、アップデートの問題や停電時等でWi-Fiの使用ができなくなった場合の送信などの課題が出てきました。
- 保育のドキュメンテーションを継続して行うことで、子どもの育ちや興味関心を保護者の方に具体的に伝えていくようにしました。
- 生活習慣の基本となる「早寝、早起き、朝ごはん」の大切さを園便りやクラス懇談会などの機会に伝えるはしているものの、朝食の欠食や夜の入眠時間の遅さなどが目立ちました。また、通園時に動画視聴をしており、取り上げられると激しく泣くような子どもも見られてきています。
- 新入園児を対象に入園前にプレ保育を実施し、保育園の生活を親子で体験することで安心して入園を迎えられるようにしました。
- 不定期での開催でしたが、居場所および仲間づくりの一環として、在園児家庭を対象にした園庭開放を土曜日の午後に行いました。利用のニーズも高く地域の拠点となるような活動を行うことができました。
- 卒園児を迎えての交流会も年間4回程度開催しました。通常は1～2年生で実施し、学年制限なしで行うと中学3年生まで遊びに来るなど、卒園児の居場所となっていることが確認できました。

⑦人材育成

- 3から5年目の職員が現場の中心となっています。自分で保育を行うことができても指導力

を発揮するまでには至っていないのが現状です。チェックリストはことあるごとに確認をしていますがそれに基づいた指導に関しては課題があります。

- キャリアアップ研修は対象者を順次受講させることができています。また、園内研修では従来予定していた内容に加え、外部から講師を招き架け橋プログラム、マルチリートメント、ペアレントトレーニング、アンガーマネジメントなども学ぶ機会を設けました。
- 松山市保育会、私立連合会の研修会に定期的に参加し専門知識を得る機会を設けました。
- 激甚化する災害に備え、BCP 訓練には非正規雇用も含めた多くの職員が参加して意識を高める機会をつくるようにしました。

⑧地域の実態に対応した事業

- 子育て支援は、公民館の合同事業として行っています。育児講座や広場を通じて子育ての情報発信や悩みについて相談に乗るように努めました。
- 小学校との交流や参観などの連携については、小学校へ打診してみたものの実現することができませんでした。
- 年2回の保幼小連絡協議会で情報交換を行いました。今年度は架け橋プログラムについて学校の教員と話す機会を設けましたが、かなり温度差があり計画が詰まっていくまで時間を要する状況です。
- 継続した地域や地域の企業との交流を行っていきました。(空港見学、紙工場見学、JA農業祭の参加、老人施設との交流など)
- 地域の活動に参加し、社会福祉法人としての役割を果たすための地域貢献活動を行いました。(こども食堂への協力、生石地区文化祭の参加、地域行事の参加、公民館清掃など)
- 地元にある自然や社会を知る機会を大切に、地域の方とも交流を深めながら社会体験活動を行いました。(埴生山登山、空港フェスタ参加、みかん農家見学、など)

⑨苦情解決

- 保護者からの意見や要望に対しては、全職員に周知し、速やかに改善計画を立て改善するように努めました。昨年度は近隣道路の苦情が1件、保育に関するご意見が1件ありましたが、受け付けてからすぐに対応することでご理解いただきました。

⑩リスクマネジメント

- 園の70%ほどの職員がBCP 訓練の研修を受講することで、計画の必要性は認識できるようにはなっていますが、自園のBCPへの職員の内容理解や実効性の確認については課題が残っています。また、計画を作成する中で、行政や近隣の小学校の協力がはっきりと見通せていないため、今後も園からの働きかけが必要となります。
- アレルギー対応はマニュアルに基づき誤食が起こらないように対応しました。食事提供は医師の診断書に基づき個別配慮を行っています。
- 過去にない冠水や、南海トラフ臨時情報の発出など自然災害の脅威を感じる一年となりました。その都度園の対応を確認し、連絡アプリを通じて保護者へ情報発信をするように努めました。

- 期限の近い備蓄の食料を体験する日を設け、子どもと保育士が試食する機会を設けました。また、災害用の簡易トイレやパーソナルテントの組み立て、発電機の稼働など災害時に使用するものを実際に触る機会を設けました。
- 日本赤十字社の指導員による幼児安全法講習会（心配蘇生など）に加え災害を想定した応急手当法（けがの処置など）も全職員で受講しました。
- 警察署と連携した防犯訓練を実施しました。
- ヒヤリハットの収集は検証までつながっていないため、共有からの課題解決の方法を見直します。
- 毎日の安全点検と松山市のチェックリストに基づく遊具点検を月一回実施しています。園内の随所に経年劣化による修繕をおこなう箇所が見られたため行政と交渉し随時修繕を行いました。

⑪休日保育

- 利用時間：日曜、祝日、8時～18時、未満児6名以上児10名程度まで受け入れて実施しました。
- 休日保育は年間延べ272人の利用があり、前年度より20%ほど減少しました。

⑫その他

- 備品の購入 幼児用雲梯を購入しました。
- 松山市による LED 取替工事を行いました。